

伊賀市総合計画審議会 意見・対応一覧(第6回)

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
市政再生の指針					
1		無駄のない財政運営、行政組織のスリム化や事務事業の抜本的見直しとある。市会議員、議会のムダというのはないのか。行政組織の見直し事務事業の抜本的な見直しは分かるが、市や県の職員の給与等は公報に載っている。極端な話、職員は365日働いているが、議員はどうか疑問。そういう人もいと思うが、そういう人のスリム化や抜本的な見直しはどうなっているのか。	今回の計画は市長部局として打ち出そうとしている。議会には、意見としては何らかの形で伝える必要はあると思う。議会基本条例がある。議会自身で対応すべきところ。この審議会は、市長から諮問を受けて審議し意見を言う場。その答申後に議会として別の角度で議論するのであって控えているのではないのか。	対応なし。	
2		会計が民間とは違うので検証しにくい。単式と複式、勘定科目の違いなど。どのように仕組みを作っていくか。伊賀市の規模は上場会社と同じ。外部監査をすべきと提案したが、予算がないとのことで断られた経緯がある。市としてはどのような考えか。公の中での評価のし合いではなく、市民感覚市民目線でどうできるのか。	これまでのように、作りっぱなしにならないように、総合的なマネジメントの仕組みを再構築しようとしている。その中には個々の事務事業の評価もあれば、財政や推進していく組織、人事などがあいまって効率的な行政運営が出来る。個別具体的な新しい仕組みを入れていくことはまだないが、大きな方向性として進めている。県の行革と比較しながら今まで市政の外から見ていると、個々に動いているように思う。その年度の取り組みを年度末に評価検証したものが、次にどのように反映していくのか。例えば、予算面では財政、計画ならば計画、人組織ということでは人事など、ばらばらに評価するのではなく、一体となって動いていくように見直しが必要という認識。監査については、県や中核市は外部評価の法的義務があるが、伊賀市での過去の経緯から予算、経費がかかってしまうため見合わせている。議会からも意見は出ているので、県などで行われた実績等を参考に取り入れて、質の高い検証が行えるのではないかと考えている。 公開の場で市民に公開して実施している自治体もあるが、当市としては具体的なことは未定。検討課題と思っている。 いつという約束はいただけないということはわかった。	対応なし。	
3		検証ということでは、アンケートをやってそれに基づいて何か行っているのではないのか。ここまでは出来たとか、個々はまだ手付かずだとか、進捗状況から検証している部分があるのではないのか。	各分野ごとに満足度、重要度を測りながら、ギャップが生まれているところには今後力を入れてやっていかないといけないということで議論をしてもらっていると考えている。	対応なし。	
4		県は外部監査を行っているということで、伊賀市で外部評価をするといくらぐらい掛かるのか。県はやってよかったところは。県で3000万なら、市なら300万で出来るか。	特定のテーマで実施し300万程度。包括外部監査をやると3000万くらい。毎年やると事務負担が非常に大きい。県は、公共施設の見直しや遊休土地利用など特定分野の外部監査を実施し、公認会計士や弁護士から意見をもらった。 良かった点は、お金の動きについて、「死んだお金」を生きるように見せることの重要性を指摘されたこと。公共団体の場合、例えば道路を作ると、それは資産だが、資産として計上されないで資産価値がどこにも現れてこない。支出しっぱなしになっている。本当に価値を生み出しているのか。民間の工場の場合、そこで製品を生み出すことによって資本を回収していることがわかるが、行政の場合、庁舎を建ててたくさんの人が利用し、皆さんの役に立っているはずなのに、どれだけ役に立っているのかという指標がない。そういった死んだお金を生きているように見せるように、との指摘は目から鱗だった。 包括外部監査は15万都市で約3000万という経験がある。ただし、評価検証ということでは議会でもその一つの仕組みだと思う。また、監査委員会がその気になれば事業監査もやろうと思えば出来るはず。既存の仕組みの中で出来ることはある。 県の監査は行政監査と会計監査があり、会計監査の方はまさに市民目線で厳しい指摘を受けている。毎年テーマを決めて、公用車の運行の稼働率なども含めて行っている。会計事務で問題があったら次の年はテーマにされる。そういう意味で、あえて新しい仕組みでなくても今の仕組みでも市民目線で出来る。	対応なし。	
5		アメリカ等は民間会社が格付けしている。伊賀市というのはどのランクか県は格付けしているのではないのか。情報公開と言っているのに公報等にも載っていない。亀山はAランク、伊賀市はBとか出てこない。市民が判断するネタがない。しっかりとした判定をして、市民に対して情報を流してほしい。	それはそのとおりだと思う。当然、評価検証の結果を市民に知らせるといって含んでいるべき。副市長の話にも、今後の計画の進行管理という観点で評価検証の仕組みを考えていくことだった。市民への公開、検証過程への市民の参加も含まれるべき。 県も市も会計制度があって、単年度の単式簿記では分かりにくいのではないかとということで、総務省が全国統一でわかるように複式簿記の形に進めている。市も県も公開する義務があるので、決算が終われば秋ごろに公開している。議会でも説明している。ABCというランクはつけていないが、公債比率や将来負担比率などの指標の数字で判断してもらっている。親切ではないかもしれないが。	対応なし。	
6		「私たち」の主語は誰か。行政と市民が文中でずれている気がする。第4段落1行目 「私たち」ではない表現に(市政運営の主体は市行政) 例えば「本計画では、改めて分権型のまちづくりの進め方を見直し、市政を再生することを狙っています。それに向けて、市では、次の2つの指針…」など言い換えを検討すること。	最初は市民だが、第4段落は「市は」とする。	資料2反映済。	
7		第1段落2行目 補完性の原則に関する説明部分を本文から削除し、注で正確に入れる 「分権型のまちづくりを、補完性の原則(注)に基づいて進めてきました」 注)補完性の原則とは…(これまでの公文書に合わせて注釈を入れる)		資料2反映済。	
8		第③段落3行目。「自らの力で」「の力で」はおかしい。自分の力だけで出来るわけがない、個人で出来ないことを補完性の原則で補っていくということを謳っているながら、ここで「自分の力で」と入れてしまうのはどうか。		資料2反映済。	

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
9		第3段落2～3行目「伊賀市民のために効果的な」というのは不要。伊賀市の総計は交流人口も含めて施策を打つということなので、一部文言を削除 「伊賀市民のニーズに合ったまちづくりが展開できることに加え、自らまちづくりに取り組むことが、結果として…」とする。		資料2反映済。	
10		「市民目線・市民感覚による市政」のところの「まちづくりの主役は市民」というのは「意欲」ではなく「理念」もしくは「原則」。また、行政が市政に関する情報を提供する話と、市民同士がまちづくりのために情報共有ということが入り組んでいる。また、「誰もが同じ意識・情報」は危険で、不要。思想信条の自由がある。 「「まちづくりの主役は市民」という理念に基づき、だれもがまちづくりに参画できるよう、財政をはじめ市政に関する情報を分かりやすく市民に提供するとともに、まちの課題を市民みんなで共有できるよう努めます。」とする。		資料2反映済。	
11		鍵括弧「身の丈にあった」「まちづくりの主役は市民」は意味があるのか。特別な概念としてここで使いたいのか。 基本構想の中に、鍵括弧をつける言葉を定義していればいいが、ここでいきなりでてくるのはどうか。鍵括弧を外しても日本語として普通に通る。もう一度基本構想に戻って、この言葉を特別なものとして使うということにするのであればいいが、もう一度検討したほうが良い。	ある意味で意味を持たせている。強調も含めて意味を持たせている。	資料2反映済。	